

協働について知ろう

那珂川市 総務課
協働のまち推進担当



こんにちは。

今回は、那珂川市の総務課 協働のまち推進担当から、「協働について知ろう」というテーマのもと、協働とはなにか、その進め方についてご説明いたします。
それではよろしくお願いします。

目次

1. 協働ってなに…？

①協働の言葉の定義

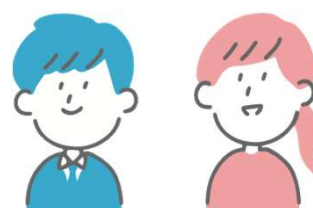
②なぜ協働が必要か

2. 協働の進め方

①協働の進め方

②協働の例

3. まとめ



今回の内容は、大きく3つに分かれています。

まず1つ目は、「協働ってなに？」

2つ目は、「協働の進め方」

3つ目に、「まとめ」となっています。

まず、「協働って何？」ということについて、協働の言葉の意味、なぜ協働が必要かについて説明いたします。

次に、実際にどのように協働を進めていくのか、例をあげながら説明し、最後にまとめという流れになっております。

それでは、まず「協働って何？」ということについて、説明させていただきます。



さっそくですが、皆さんは協働という言葉聞いてどのようなイメージを持ちますか？

また、具体的に何をすることをイメージできますか？

行政と住民で何かを一緒にすることではないかとイメージされた方が多いのではないのでしょうか。

例えば、花いっぱい運動のような植樹活動や、地域の清掃活動のようなイメージだと思います。

もしくは、正直よくわからない・・・と思った人も多いと思います。

1

協働って何…？

①協働という言葉の意味

市民(団体)と行政が、**対等な関係**で**お互いの立場や役割**を理解した上で、**目的を共有**し連携・協力してまちづくりを進めること。

※那珂川市で決めている言葉の意味

那珂川市では「協働」という言葉の意味を次のように決めています。

市民や団体と行政が、対等な関係でお互いの立場や役割を理解した上で、目的を共有し連携・協力してまちづくりを進めること、です。

言葉だけでは難しいので、スポーツで例えてみたいと思います。

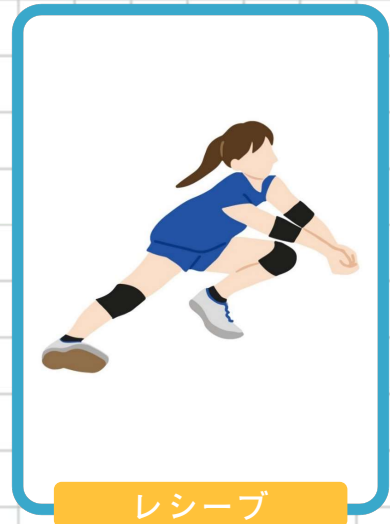
バレーボールで例えると…



アタック



トス



レシーブ

年齢も性別も違う地域の方々にバレーボールをプレイするときにイメージしてください。

例えば、
アタックをしたり、
トスを上げたり、
レシーブをしたり、
あるいは
点数をつけたり、
審判をしたり、

たくさんやることがある中で、参加するメンバーによって得意不得意やできないことがありますよね。

そこで、役割分担が必要となるわけです。

メンバーの能力や得意分野に応じてポジションを決めて、プレーをしたり、試合に出る人以外で審判をしたり、と対等な立場で役割分担をすることでバレーボールができるわけです。

その他のスポーツも同様だと思います。

目的を共有しておくことも大事です。

地域のみんなで親睦を深めたいのか、バレーボールのスキルを磨いて大会に出たいのかによって練習の方法も全然違いますよね。

大会で優勝することを目的としているのに、練習よりもおしゃべりばかりするのは何か違いますよね。

どんな目的で、どのようなバレーがしたいか、そういったことを共有したうえで行うことが大事になります。

ここが一番のポイントなので、先ほど説明した「協働」の意味について改めて復習します。

協働とは、市民(団体)と行政が、対等な関係でお互いの立場や役割を理解した上で、目的を共有し連携・協力してまちづくりを進めること。

バレーボールに置き換えると、地域の様々な立場の方が、対等な関係でお互いの立場や役割を理解した上で、

親睦を深めたいという目的を共有し、連携・協力してバレーボールを楽しむこと。と説明できるかと思います。

皆様、協働の言葉の意味について、少し理解が深まりましたか？

ここまで、協働という言葉の意味やその例をみてきましたが、なぜ協働という言葉がこれだけ言われるようになったのでしょうか。

1

協働
って
何
…
？

②なぜ協働が必要か

地域の課題が多様化・深刻化していること

少子高齢化、人口減少、格差・貧困社会、自然災害など、20年～30年前にはなかった地域の課題が増えている。

地域コミュニティが多重化していること

平成11年(1999年)から政府主導で行われた市町村合併により、同じ市内でも地域の特性が大きく異なることとなり、課題が複雑化した。

それには、大きく分けて2つの理由があります。

一つ目は、地域の課題が多様化・深刻化してきていること、
二つ目は、地域コミュニティが多重化していることです。

高齢化・人口急減を筆頭に、近年頻発している自然災害、高齢化・車社会等に起因する地域の安全対策など課題は多様化し、それは年々深刻化しています。

また、平成11年(1999年)から政府主導で行われた市町村合併(いわゆる平成の大合併)は、基礎自治体の大規模化をもたらし、
同じ市内でも地域の特性が大きく異なることとなりました。
例えるならば、1つの市に山、海、都市部の全てがあるというようなイメージです。
このような状態になると、地域の課題は多岐に渡り、複雑化します。

1

協働って何…？

②なぜ協働が必要か

地域の課題が多様化・深刻化していること

少子
には

年前

行政だけでは
解決できない…

地域

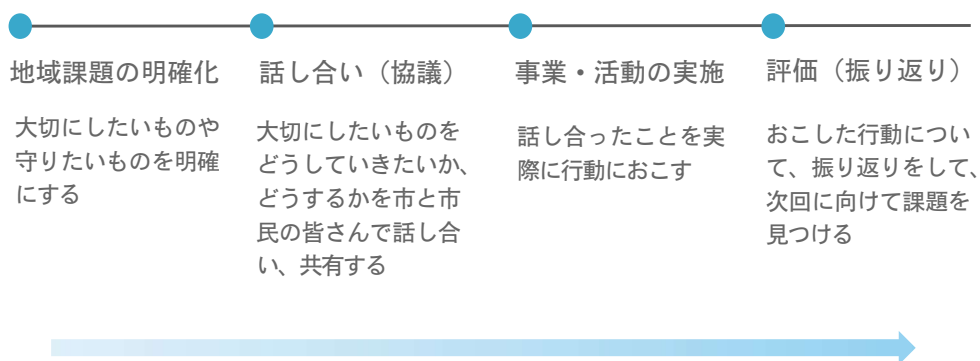
平成11年(1999年)から政府主導で行われた市町村合併により、同じ市内でも地域の特性が大きく異なることとなり、課題が複雑化した。

このように、地域の課題が多様化・複雑化してきたことで、それぞれが単独で解決しようとするのではなく、協力して解決しなければ、もはや解決が難しい状況となってきました。

このような地域だけ、行政だけで解決できない課題を解決するために、「協働」が必要となります。

次は、具体的に協働って何をしたらいいのということで、進め方について説明します。

①協働の進め方



協働は、左から順に進めていきます。

一つ目は、地域課題の明確化です。

大切にしたいもの、守りたいものと言い換えることもできます。

次に、話し合いです。行政的な言葉でいうと協議でもいいかもしれません。

地域の課題や大切にしたいもの、守りたいものをどうしたいか、どうしていきたいかを市と住民の皆さんで話し合うこと。

そこから初めて協働する事業が見えてきます。

その後に、事業や活動の実施、最後に評価となります。

ここで重要なのは、何をやるかではなく、事業・活動の実施までをどのように進めるかということです。

皆さんと一緒に、地域課題に対してどのような方法で解決するかを考えていきましょう。



それでは、協働の例を1つ紹介します。 クリック

総務課では、年に3回、南畑・岩戸・片縄・安徳の4地区に分け、地区ごとの意見交換会を開催しています。

区長が各地区の課題や悩みなどをもち寄り、また、各地区での取組みを情報共有することで、行政区活動をより良いものにしていくことが目的です。

主な成果としては記載の3点です。

まず一つ目は、【クリック】 区役員の成り手不足や負担軽減策の共有です。

今光区ではこれまで、自治会活動は区長が、公民館活動は公民館長が管轄していたため、

自治会費の振り分けやそれぞれの事業の連携に悩んでいました。

そこで、副区長という役職を設け、自治会を副区長が、公民館事業を公民館長が、そして両方のトップを

区長にしたことで、それぞれの連携が図れるようになり、負担軽減につながりました。

また、王塚台区では、文書配布を隣組長などの自治会役員が行うのではなく、住民から広く有償ボランティアを募る方法へ変更しました。意思決定は役員会で、実際の作業は住民にと分けることで、負担軽減につながりました。

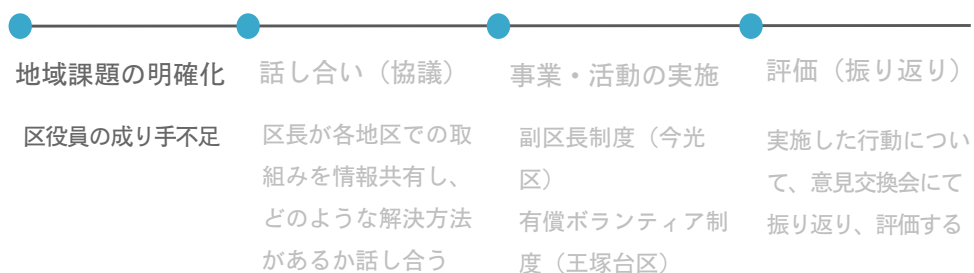
2つ目は、【クリック】 コロナ禍での自治会費の活用方法です。
片縄谷口区では、全員参加型の抽選会を企画、実施し、区民に自治会費を還元したり、
文書配布時に各家庭にゴミ袋を合わせて配布した区もあるなど、
イベントができずに余っていた自治会費の有効活用へとつながりました。

3つ目に、【クリック】 各課にダイヤルイン、直通番号が導入されたことです。
これは意見交換会の中で、着信履歴で役所からの連絡だとわかるが、
どの課にかけなおせばいいかわからない、といった意見が出されました。
その解決に向け、行政と区長で解決に向けた話し合いを進めた結果、
意見が出た翌年度、平成26年度の1月からダイヤルインが導入されました。

では、この例の成果の1つを先ほど説明した協働の進め方に当てはめてみましょう。
【クリック】

②協働の例

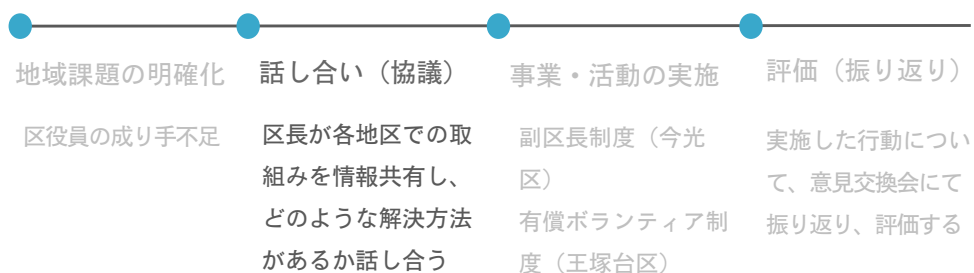
～区長との意見交換会～



まず、地域課題の明確化ということで、ある区長から区役員の成り手不足という課題があり、この要因は「役員の負担が大きいということである」というように課題を明確化します。

②協働の例

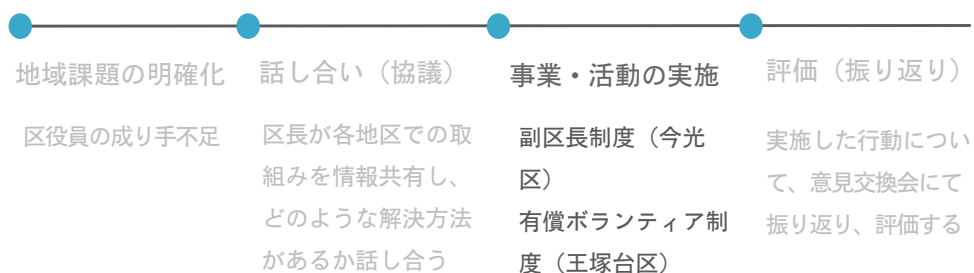
～区長との意見交換会～



この地域課題に対して、意見交換会という話し合いの中で他の区と情報共有を行い、この解決方法として、先ほどご説明した、今光区の副区長制度や王塚台区の有償ボランティア制度を各区に持ち帰ります。

②協働の例

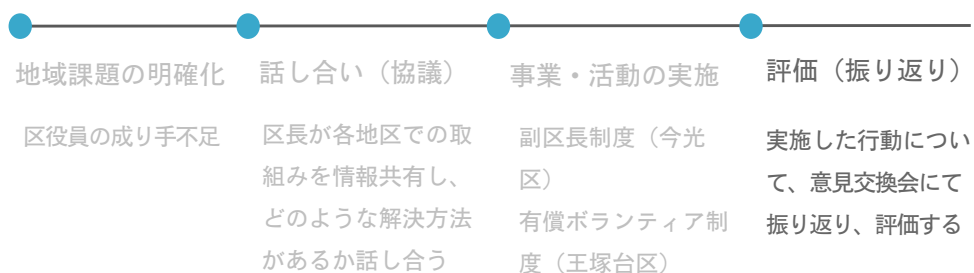
～区長との意見交換会～



そして、先ほど話し合いの中で出た各制度を各区で実際に行います。

②協働の例

～区長との意見交換会～



最後に、実施結果を次の意見交換会で報告して評価し、さらに課題がある場合は、再度課題の明確化をするというようなサイクルを作っていきます。

ここまでの流れのポイントは、課題解決の方法として、従来のように行政から区長に何かを依頼したり、お願いするような方法ではなく、行政は意見交換会を主催したり、事業の実施に対して支援が必要な場合等についてサポートを行うことで区長や各区民の方が自主的に行動しやすいような仕組みを採用していることとなります。

3

まとめ

協働とは、市民(団体)と行政が、**対等な関係**で、**目的を共有**し協力してまちづくりを進めること

協働は、**行政だけ、地域だけで解決できない課題**を解決するために必要なこと

協働には市民の皆さんの**積極的・自主的**な参加が必要であること

それでは、今回の動画のまとめです。

まず、「協働」という言葉の意味について説明してきました。

那珂川市では、「協働」とは市民・団体と行政が、対等な関係でお互いの立場や役割を理解した上で、
目的を共有し連携・協力してまちづくりを進めること、と説明をしています。

バレーボールに置き換えると、地域の様々な立場の方が、対等な関係でお互いの立場や役割を理解した上で、
親睦を深めたいという目的を共有し、連携・協力してバレーボールを楽しむ、とイメージしていただけるかと思います。

そして、協働は少子高齢化や人口急減をはじめとした多様化・複雑化する行政だけで解決できない地域課題の解決のために必要不可欠なことです。

そのためには、行政主導ではなく、市民の皆さんの積極的な参画が必要です。
市民の皆さんが自主的・積極的に参画することで根本的な課題の解決につながります。
行政は皆さんの意見を最大限に尊重し、一緒に支援していきますので、暮らしやすいまちづくりを目指していきましょう。

お問い合わせ先

那珂川市 総務課 協働のまち推進担当

Tel 092-953-2211

Mail soumu@city-nakagawa.fukuoka.jp



今回の内容や協働に関する事など、ご質問があれば記載しております問い合わせ先までお問い合わせください。

ご視聴ありがとうございました。